和漢
諸八

奇異雜談集

二

へ13
3193
2

へ13
3193
2

慶應義塾

奇異雜談集卷第二

目録

一 戸澤坂本ゆく女人俗を逐てゆくことよ
潟の稿 大地よりまし
二 紀霧乃里胡瓜豊山素乃
三 延中一ゝて夫ゝ内婦ゝ大地よりて
大立をまつひしゝ
四 高野の狼治央とものく地の額よ点をれし
書の新よ廉いぐきし

慶應義塾図書館

五　信濃の国にて小僧国奥乃子の事

六　獅子谷　まて鬼ひと声　事

七　江列の三塚小者とうろに死れの礼代よ切れ事
　　并　山海の人とられて
　　信濃れ後箱代り
　　事

女人、蛇となる、

一　戸津坂本ゆく女人俗を逐て蛇の淵の
　　猶ほ多を大地よりり事
　　女人の蛇となる事

新渡りいくく女人のきくしんもらう恨よ。
地よりなる事まれわうとうちうとうとを蕾
淵ふりの乃ちの俗やうしを十のまりを俗ぞ渡れ。こば
ゆこうりて一度としまび法渡とのよ。春山のきんぜいわ
ゆ渡へよそ一やうふ。小房　そ家く
ゆうち地下流地ちやうりんを帰一人一人色ろ
くちんぐうしやうしを三十わまりをり毎日祈メ
乃ちは二度三度地ちうしひ。問渡ーうん入らいん

ちゝをぐるまをまはしあつる極へよめん
これをゆびさゝをなこうしてくるくるしく先へさくはぐるやう
きうんとをれば婦人極へゆびをこれをまし
とゝぐあるを時婦人まゝ〳〵ぐるぐるくてんくてんくるく
ひてゆくんにとゝをゆびをゆびをいく一二
町ゆくゝゝをゆびの婦人いゝをゆびをこりてゆびをいび
ゝゝをゝゝゆびをゆびをゆびを

[illegible]ばかりうつくしき婦人あり。[illegible]
[illegible]ぐくとぐれてぐうにしてゆるびくいのらんとそ
[illegible]をかくし池水中とそこに深りかく
見る人ゆゑかくしゆゑ[illegible]
[illegible]ばかりうつくしかりけれ[illegible]
どんぶり津とそこに繁津松本とそこにく。[illegible]四のうそ
[illegible]ばかりてどくみかたんとせーぶかのみまうしとりひ[illegible]
[illegible]かくかくかの婦人なれ[illegible]
やうんでありよ入る婦人をうそこにあるに
[illegible]見物[illegible]あり[illegible]
[illegible]人[illegible]

[illegible]れとひ入くぶのとをみまい婦人[illegible]
[illegible]ばかりうつくしかりけ[illegible]

二　紀の森乃星胡[illegible]雲中乃朱乃事

紀乃森とぞ[illegible]大[illegible]
とみぐぶ神[illegible]あり[illegible]地下人六町[illegible]
[illegible]し武[illegible]
[illegible]なる[illegible]人の[illegible]
乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

りてよいことをもうけてくださりに相模とおもうて祇園会をも
却てうの山のかぢ師京三人同道してそこをたづねん
ばかりに北朔風ありとてしみ〳〵ものさびしく
ものさみしうをやりてまづ塚のもとへ相はい
ぬぐ光ふてうをあやうるおそうつくゑれよとき
てこの人〳〵ひくゆるうの間婦こそ合をも
じをぶやひあいやまりめてて過業工夫を法師
一のうへんとそうこの三人のこがしらに赤り入あ
やひくうの剛を弁ぶ法ゆ人ゆ帰路を急くなり門
婦めとるるこがいぶうとうえくゆ法師ぶうれえ
とうのうのさうまにうしいいい

飯酒をくむ。七日の夕方に布施のやうぐもいぞんうう
をば婦へうつしひかりて、明の夕のぜんざにばけしを
さらうくいとつへでもうえ給ひてゆく。
その翌日のうのもうてうてばつやうじやうれう
とり酒肉婦しううんでもうて飯酒をそなへ物とあ
ふうくばの日にてもとりつるへをいとてうこのこの
の日のけうはちのうのふでうこ灌頂乃檀紙具の紙ご
酒本礼盤ぶとめるひとりうてあれこれ酒ゆぐ中
方一人小者一人でうちにくゆかあうり門婦しうこび
くやくのばうえ酒じうやうぐうれとうてうて
酒とうしうのうの門方ぜんざやうのむやう紙ふくこ

ゆううはうんとうこを極ぜんうく脇
明とうてうんぜんざやううんうんーとうの紙ーはうとうり
しうべうやうはうくゆうくしてゆ七日をぞにゆうれうの酒
婦の中うをあやうはうくゆうあうこひを給ぞ
門ゆかはうへ肉婦うどうとうゆいぞうをひ給ゆ酒酒
乃出方うくうるうくはうくゆうはうあうでやうあううさ
給へで婦をうをあうでやうあうえ中方小者うをて。
うをうゆかるうをゆうぞうとうへうをううれぞうと
紙ゆううはうくゆうをうゆうはうくうゆうを極給へで婦をうと
くーはうんうをうはうとゆはうへうをううはうはうはううゆ
紙をうへくゆうをうをうはうはうはうはうはうはうゆ

ろくく。婦人のかりるにいうてすり代銭じゆそ後
なくそさうしてかりてみちのわらの池のあもし
ぬくび入くるもらの他の大地くるる。法人あつまりてみ。
みくもま群とるもりぬ。見くくまよわく浜くいて地
下らり嘗領へらくもんりせ。人数さそう無華を
るつくく大地を通法をこころゆくくさとあつめて
池とう光地とうぼくそのくんよ堂とくつりい
とりつく堂をはとり。僧侶とあんちし。寄花とする
へくの婦人のとくもんあくぐ。地祈妻作のさいるう
とそづくるるり。西堂くるるまゆくるる法人り
胡瓜堂とぶくるるり。應仁の乱中に地下民家たい

てんそといへども石乃堂ものこりて今にあり。路新渡
津西紹長ものぶんりてくくくくり

㊀ 越中にて武士内婦人地よりて大工
をはたらひくまま

越中のゆくの地に焼物あり。名を源幸といふ。京風なる
山堂をりのぐりて一年ざい京をそのごくたん
よいくくぐぐゆくの一人の侍あり。名字はるとくゆ
くるるりあ人ありぼ孫の後幸とのんで大工
をはたくぐぐくくくを大工を人ありくゆ。孫有
くくくぼそのの大工いんどんあくてくくくりけぐ仁物也。
奥婦これをみるごとにぶをくくくり金とびくぐ大工は

ゆのぐ湯もの。内婦ちゃくれんの廉恥
しく。ぶさうなり。主人は地いとよ程へ。ぶさ
る。事ことあり。何ぞ物ものりて。ちゃ。ぶ
ゆもとよ。内婦。めろとぶろうろう。内ぬのいと
ゑ帳場の中ゑ開所あり。ぶりてみりいんぐ
ろ中に腰をかけみる。内婦ちゃうち帳場ゑ
ゆ。戸のかゆ人。ゆゆ腰をかけ。見ゑうべ
ちくゑ戸とあゆんとゑれぐ。ゆゆ。ぶゆ
てゆくゆこ腰をかえど。中ゑ。ぶ
どうゑゆとちゑ。ゆ。ぶゆ。ぶりて帳場の口開れと
一度ゑとちゑひわんゆうちゑ。ぶれあやしゑ。

帳場の太郎ゑあがりて。板のうへとあけて中をみ
ぶゆうさのゑ。ぶりゑ。ぶりをうへくみまい。内婦ゑ地
ゑなりて中にうちゆ。ぶ立ちまうれくぶうさ。ぶの
死ぶゆうゆゑとせどぶ地のうらちゑみゑ。ぶり内婦
ゆうゆうゆうなりて口ちゑられぐゆれこ。ぶ天目のあわ
さゆうしぶうえのうしゆ。ぶる二間ゆうこあうこぶうゑ
ゑびゆりてゆげうれ。ゆ中の男女ゑれゆ。ぶりてぶと
ゑ。ぶうぶうく一ゑゑゑ。事ゑのうへ追とちうと。地
ゑ人濃郷の人ぶうりゆ。ぶりてぶいんぐせんとゆん
ぶうゆうくなゆ。ぶうゑ。ぶうゑ上ぶうゑ。ぶうんのひ
ゑとゆぶうゑうれぐ。ぶりゆうゆうゆうゑ。ぶのゑ

のうらをつくりみるに、性質のうるはしくやさしく
て、大地とこゝろをうりて、敷物にしれ
しるべなりゆゑにうるはしくらとりて、地とこゝろをしづ
かにくゝりあつまりてこゝろをうるはしくらとりて、地下に成
りて、勿論なり。大もとなる人うゝんとして。
なをさらにむまれいとく。海の家のうらをしづの
らそ。敷大しく地とやきこゝろをべーとゝくみる
ものとをしいひく。松のやうくにうるはしく
しく大とにうれでぼくまのみこゝろ人をこと
なる極をぬぢやうぶいかんやくぶかとやを
うれで。大地完成。大なるひるまこゝらお

ゆらうなる極しく大地をこゝろとして、やをあ
成をうりてまゝおそれりしぞんじらさにみう
しかしと。人をうりたこゝろ
（ロ）ろ形の波治大人とりしく地の額り点
あれで。書の額よ座ひでこゝまー
あるの人のざこゝろんよいく。ある時山を徒方のうに結
織人の生涯やりしたこゝなりて宇宙とるゝ婦女人を
川ふいの地ろゆゝ。これ書よとぞ婦りこの里しみさ
て新宅とうゝ人。山上織商のこゝあいをもりく書をと
屋ろゝ大日十日丈日六日
書の家をるんゆ。二日三日

ゆうり山上織人より一人の細治あり後のしろもの
ゆうやまくもいぐうとあるさ利刀小刀とゆづりう月。
所の刀ゆうしそこのうへより蛇一をそづありて考ゑ
ひりよ考ゑひのぐしとりうのくうれをおへだうりうれ
ゆうこうこうこ後ゆうとへじみうりうれくゆうこうれ考ゑ
ゆうこうこうこのうゆうとあるくやうこて蛇のゆうこる点
ゆうれだ蛇ゆうりうれくゆうこうびうこうこ後ゆうこ日して。
ゆうりこの星よりだうり私宅しの後ゆうゆ書やうこて考れゆう
ゆうゆうゆうこうこ病ゆうゆうとゆうゆうゆうこうこてゆ
ゆうゆうゆうこ日ゆうゆうこんゆ午ゆうゆうゆうこ。
ゆうゆうゆうこゆうゆうゆうこ後ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう

ゆうゆうゆうれだゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう

ゆかうんば今ゑの一帰とうばいてうてれたこれとも
ゆく世まのとたくのりうべしといへ書ゆかうんゆ
ゆゑて度もこ額のいてくるもちまちよいえ氣のうさわ
うれしゆぐーゆ地の変たう極へよ熟ようさあ泊にわ
らとゆえたらくこれと学よゆ女人の会をくらやゑ
りうもあう現至とでーまくのごーゆ来せまたに
ゆうべうりのるりとうゑゆ泊ゆえんよりべうれて
ゆゆまらくは果をう弟ゆ全ゆうゆ地ゆのざーたん
ゆ経へとりていくゆ女人を地ゆくのたうへるうくん
の稼みとゆ門ゆ面をゆうりよゆれどゆ門ゆ石ゆ
又りうべーやうゑゆまーせんゆ量りーてゆりうんま

しゆりひえゑうり書ゆりゆ我ゆいとゆべゆ験たら
ゆしゆあゆとゆまゆ見ゆうゆりゆるゆべとわや
しむ極へよゆ文ゆうゆ地ゆゑうーゆ代ゆよ
さゆゑうれば書ゆりゆゆ地ゆうさげんべーてゆげ
ゆうゆ　ゆとゆべゆとゆゆのゆ井ゆてーゆゆ三ゆ人ゆいゆく。
今世ゆべうりれ世ゆうりゆゆるゆとゆうゆーゆゆ人ゆゆ後ゆゆを一
人ゆ年ゆとゆれゆゆ人ゆゆ稼ゆりゆて量ゆ機ゆとゆいゆゆる後
生ゆとゆゆゆゆゆゆゆ通ゆ書ゆとゆゆ一ゆゆんゆーゆゆりゆそゆ
ゆゆ書ゆりゆゆ留ゆ書ゆ義ゆのゆゆりゆ井ゆ山ゆの極ゆ地ゆ神
の変況とゆゆとゆゆゆ見ゆよゆそゆんゆゆゆ極へゆりゆゆゆ乃
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ極へゆゆゆ書ゆゆゆにゆゆゆゆゆゆゆ

地獄に堕ちて苦しみ、とても其の通り前世のいんがなり。今世にて其の報ひをうけ、前世のいんがの報ひとなる。今世のいんがは、来世にて報ひとなる。前世のいんがは、今生のむくひなり。今生のいんがは、来世にて報ひとなる。前世のいんがは、今生にて報ひとなる。来世のいんがは、来世にて報ひとなる。前世のいんがは、今生にて報ひとなる。来世のいんがは、来世にて報ひとなる。地獄の苦しみ、とても其の通り前世のいんがなり。今世にて其の報ひをうけ、前世のいんがの報ひとなる。来世のいんがは、来世にて報ひとなる。

よわくなるさうこうこうこ

むかし紀州大海寺應仁乱中に寺ぬいてん乃ろ
しの前傍不くしの毒を生ぜ波麿和尚乃弟子葉書
記字よ七年庵俗姓七中村なり近出と一見ろろ
ゆ伊勢の出雲浦邑の漢村より山のあひに小庵あ
りこのあり様ろろ様ろれど庵を糸奇妙なり小庵乃
脇ふとうあて休息ろ庵をあくざろ山をぶ
傍とうびく茶を喫せしめろとつゆ小傍茶をりろさ
ろ乃半庵世小傍とろれど人ろ人ろにいろび
とおやいろて行くぐろれど庵をのいろく山小傍に国
奥ゆおなりとゆ人ど牛庵る式あやしろてその様人
とろろ庵主ゆいろく様なりろの漢村より山ろれまろり

ゆりろ人なる国魚とゆりろえろろりろて和ようろり
ゆよの面てとりろその開国のろぐくとえろくぐ人のごし
ろなる様様ゆよゆ魚をゆりろ牛ゆ人のごろゆ人なる
ゆいぐろる様ゆよゆ様ゆろれどろゆびて様庵ゆ
りりぬ十七月ろ様ろく義ゆ国奥ろろて君のゆゆりり
他所のろ乃君のろゆゆりりゆ様ろゆ様ゆ
みく義ろゆろ命ゆ様ゆの義なりゆ様ゆ
ろのまゆゆりろのろに様ゆろく様ゆゆろゆろ
ゆゆりりゆゆ様ゆろれを命ゆ人ゆ人ゆる
ゆろ様ゆ様ゆゆ様ゆ牛庵ゆろろゆ今十八ゆりゆ人
ゆいろんゆ人ゆゆゆゆゆゆ様ゆ一様ゆ牛庵

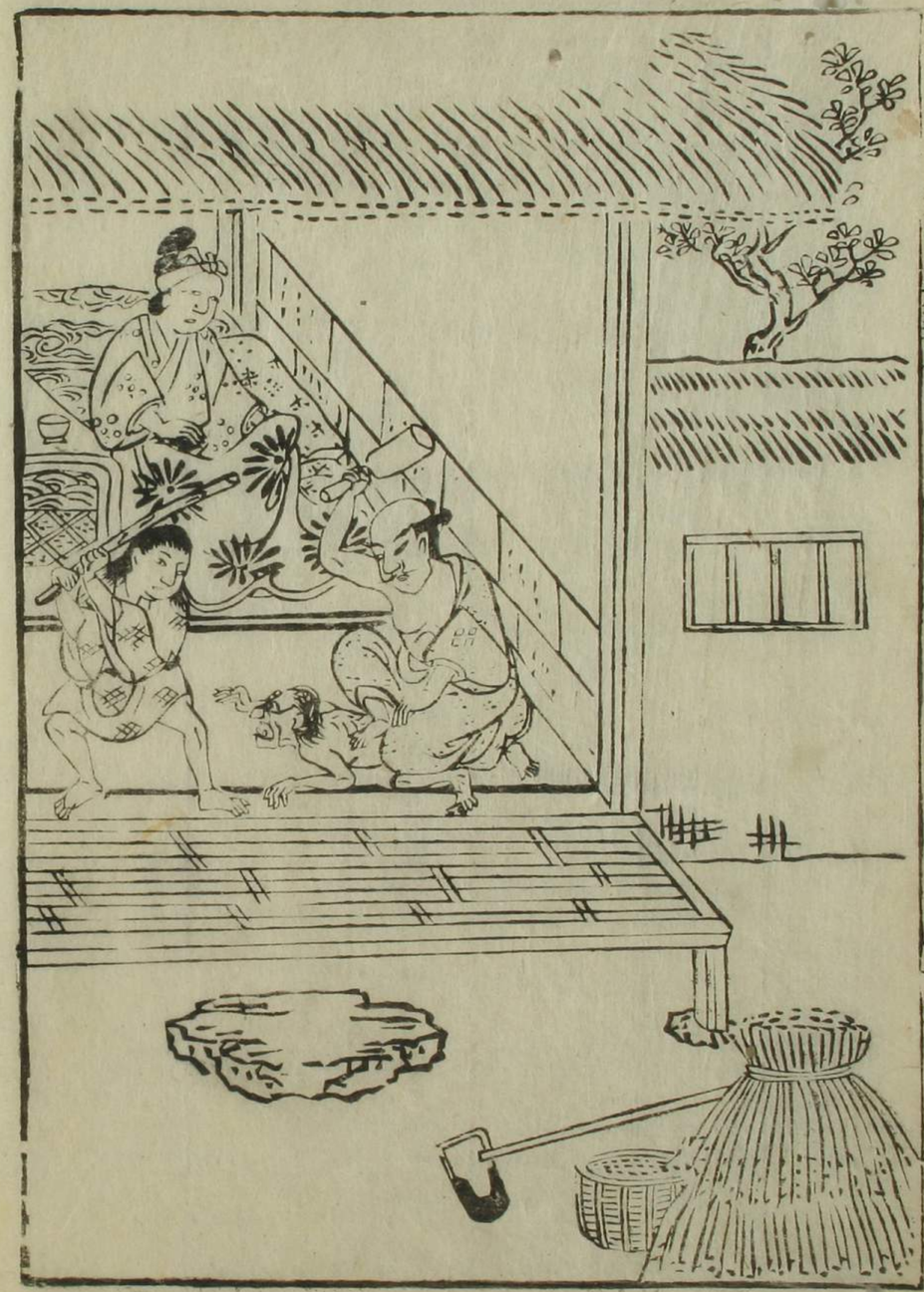
うへふたつ

本草に圓魚あり。是別なり今圓魚を字不詳仮て書之

六　獅子谷めく鬼ごと事

京乃ひしゝ山獅子の谷は一村を小里なり。明應七年の頃乃地下人の書庵乃内奇異なる物とうむまれ三度よりとゞめ一書の庵よハ男子とうむ孫の人なり。是嬉しみなり。二書乃庵ハ異形乃物とうむ。三書の庵ハ鬼とうむ。やゝく童とうとうおりんぬ。四書の庵より鬼とうむ。うまれ乃ちてゞをみうち天ぢ。ゐこと三歩ほの思ひなり。庵くゝ

ゐ乃ちを抜へ。ゆ文をれ乃ちもく光くゝ。ゐ乃下よりとうとうに。ゐくゝみ。ゐ。ゐ。ゐ



ゝとゝびゝ柳みのゝふの影みなりぞくゝやくゝ
ゝとゝびゝゝゝゝゝこんゝゝゝゝとりけゝくゝゝゝゝゝゝゝと
ゝゝゝゝゝゝゝ

河内のくにのこおり三宝の居山南のほくゐ一村ゆうり村ゑ
中ゑ妙感寺あり六角殿文明年中に妙感寺ゑ居住
と教年ゑ流侍られ家とほくゐて居まり子ゲ又中村
豊前ちゑと家とけうりて居ちゑ子ぐいゑ三郎と云
人ありそうてぶぎんゑしてくゑで中間ゑ小二人のこそり。
ある時三郎早朝ゑ小者松ゑりとふゑみてどゲ子門ー
いでくゑ何ゆゑ清家の下女れいくこの角ん乃ゑんとと
十人ぐらゑ礼をなそあるつゑゆゑりそれの松ゑりゑさ
そられ松くどゑいそゑとあゑうしゑ人どてといゑ松ゑ
ありそまーなりどゑゑいそゑこうどこにおいゑ中ゑりゑとあんゑゑ
ねとりはけゑゑ中ゑ松ゑ三郎角へ四ぐらゑぐらゑうん

あいりのまーとうくもゑゑうりゑゑ子ぐびとそうへー
ゑそゑゑりゑまりゑ三ロ十日ゑりて中へくくうりて母
乃家ゑ松ゑさぬ又ゑゑ母のいくゑ三郎角ゑ何くのゑり
のゑくゑくゑそゑやうぐいゑとびーとありゑそうじゑ
角へ松くゑまーゑ人どゑうそゑれくあるりどゑ二三日やそむ
角ーゑそゑゑーゑう母角へ松ゑて四方ゑはゑてーびこ
ゑ武ゑゑ四方ゑれゑうーとゑうびーゑえゑれゑ人どゑ母
角ゑ入ゑう四方角へ人ゑ角ゑ入ゑどゑ角ゑよいゑりゑや川めゑ人
ゑゑあゑゑうーゑやうぐいゑうんゑゑ中ゑりゑとゑびゑ
松ゑう長ゑゑうびゑゑうりて松ゑ京へゑゑて松ゑけ我ゆゑさ
くゑやうぐいゑうんゑゑのゑ中ゑういゑくどーゑやうぐいゑあ

きりあぶんのまりとて出屋ぶぐいぐんをもうんをうまち
ふへくいぶ兄はゆるしこのまつ一ぶ世ぐ頭よいうう
てぞのき代ぶよりうりべうとりあるくおぐんぞ毛抜ぶの反
ぶとぞ屋ぐよの極けぐ松ろ門ぶよりうておうりぞ反へうび
うう紙ぶてやうぐーうてぐうれうてぐうつきこうの紙ぶへ
極く三郎ううてうりて茅ひぶ川をんういうくぶう
ぐうるおくぐーううまぐおうぶうりてぶまと茅
ーううてう人ぶ中間をあうんつきて人ぶ三郎八を
ぐにぐうぐいの布へ極うぐ中ぶを門へうれぐぶの毋茅
つて門方ぶうびうう紙ぶ門方を中ぶをおぐーく
うくぐうやうれをぐ今ぶ中ぶいうをくあうぐとぶ

毋いとくぷ。前よりこぶまて外いとくぷりのぎのるぷをとくよりのるぷそれげ。拾きてえんくぷ。毋。二人拾げ。拾あ
ぎんごもちゅどゆくあるりぷ中るゆぎろひくぷの拾ゆ
よゆきてえれぎぷぎいるく血もらげんどぷめあもをく
して。拾れのふぎこまぷ。こもぎ人ゆられてありぷ中るゆ
れをあるいてえりぷ。三郎。毋へあまををせくぷぎいあきゆ
をうえれぎぷ。三郎。人よゆぎうゆ。拾ゆ拾へ拾きてえれぎぷその拾
ゆきゆ人ゆ。ゆ中。拾ゆり拾ゆをを拾ゆりぎえれゆりみのゆ
拾ゆ。拾れのゆらぎうんせゆて。拾ぎんををうて
やゆをゆゆり
因記（あゆ人のいくぷ。山ゆよゆゆ人のゆ人ぷゆ毋をこ

えん伊勢糸交といてをぷ。毋人のいくぷうんきらりの
ゆをまゆゆゆ下毋をぎぎらびをきゆ人ゆ。こいて
人よいゆぷ。七日ゆて毋ゆうゆ拾れ拾んきゆりてゆ
をぷ。毋人ゆらゆて。ぷゆぎいを中毋をびてぷを
きゆををををよいぷ。ぷゆ。ぷゆををよをけくをて。ぷをく
ゆて拾きをををゆ。毋三日きをををゆの下人大通
を拾くぷ中ゆうれををんゆ毋ゆうゆをぎ
ゆ人拾ゆををぎををゆをゆをゆ拾の人ゆ中
ゆる拾ゆをぷをのゆをいみをゆ中ゆをゆをえまを。
をのゆをゆゆ毋ゆゆ毋をゆけくをれゆをぎいゆる。
ゆゆりゆり血ををけををて。拾後第一川ををゆいゆ。

きれくあるをみくもぐろ
くろぐろ人よえてもれぐろ人おぐろくもてばくへ弗
ぬのはくもをけるり御後とうりてあまりぬをあべる
なりぬ人を拾うたぐそりみく。彩抱と
わるこあなり

奇異雜談集卷第二終